

インターバンクの声（2017 年 1 月 30 日）

トランプ氏が米大統領に就任してから一週間が経ち、新大統領への期待と不安が混在する中、一度は 112 円台中盤までドル売り・円買いが進んだ円相場だが、週末のニューヨーク市場は就任式前とほぼ同水準の 115 円前半で取引を終えた。

ユーロ相場は円相場に比べると変動幅は小さかったが、こちらも就任式前とほとんど変わらない 1.07 ドルちょうど近辺でニューヨーク市場を終えている。

英ポンドは欧州連合 (EU) からの離脱を巡るメイ首相の方針などからポンド高・ドル安となっているため、他の主要通貨とは事情は異なるが、トランプ米大統領誕生以降のドルは、総じて就任式当時の水準に戻って先週の取引を終えている。

先週の中盤にドルが弱含んだのは、米新政権の政策に対する懸念とともに米長期金利の低下が大きく影響したが、週後半は弱い米経済指標の発表が続いたにも関わらず、トランプ大統領に対する期待と長期金利が落ち着いたことがドル買いに繋がった。

今週は、雇用統計など数多くの経済指標の発表やトランプ大統領の外交などを睨みながらの相場展開となりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。